



高梁日新高校
ボランティア同好会

高梁日新高校ボランティア同好会の2年生5人が、ペタンクに出場して、国体を盛り上げようと放課後練習に励んでいます。5人は、狩屋大輝君、森本拓也君、武田丈加君、石井秀幸君、志茂孝行君。2月に日本ペタンク協会の検定試験を受け、投球フォームの実技、ルールやマナーの筆記試験に合格して、普及指導員の資格を全国最年少で全員取得しました。

ペタンクは、フランス生まれのスポーツで、1人か数人1組で、的となる球（ビュット）を目がけて重さ650〜800gの鉄の玉を投げ、標的に近づけた距離で得点を競います。公園などのわずかな広場でも手軽にできるスポーツです。

『ペタンクで国体盛り上げたい』



国体期間中には、あまり知られていないスポーツを普及する目的で「デモンストラクション競技」が県内各地で開かれますが、ペタンクもその一つ。総社市清音で行われ県内の100チームが参加する予定です。

同好会は、主にカーブミラーの清掃などの奉仕活動をしています。5年前にペタンクを取り入れた交流活動を通じてお年寄りとの交流したのが、はじめるきっかけになりました。若者にも競技を普及しようと、市内の中学校に指導へ出かけたたりもしています。

副会長の森本君は「ペタンクは、めがけて玉を投げるだけでなく、チームで戦略を考えるのも魅力の一つ。競技を通じて、いろんな人と触れあうことを楽しみにしています」と練習に熱が入ります。

「けんたろがな人」

大月孝之さん(61歳)
有漢町有漢



4月1日、自主防災組織「有漢消防協力隊」が発足しました。発起人は元有漢町消防団長の月孝之さん。大月さんは、40年間の長きにわたり、消防団活動に尽力され、引退（平成15年4月）までの15年間は団長を務めた。消防団のエキスパート。団長当時から消防団を後方支援するボランティア組織がつくれないものかと思いを膨らませていたそうです。

昨年全国で発生した台風や地震による大災害をきっかけとして、「もし有漢町でこのような災害が起きたらどうなるのだろう。消防に協力できないか」と賛同者8人とともに立ち上がりました。各町内会への呼びかけで、消防団OBら123人が集結。

地域住民の幸せな暮らしを願って

有漢方面隊の3分団と同じく3隊を編成しました。発足した協力隊は、各分団の後方支援や初期消火、災害時の警戒、有事の救急車輦・一般車輦の誘導、ひとり暮らし高齢者への声かけなどの活動を行い、有漢地域全域をカバーします。

大月さんは「若者の減少や生活スタイルの変化で団員確保が非常に難しくなっている。手づくり・手探りの組織とはいえ、多くの賛同者の協力でスタートを切ることができました」と謙虚に話します。

市内の自主防災組織は17隊の協力隊をはじめ、女性・少年少女などの隊、計54団体がありますが、町全域をカバーする大組織は市内初。

大月さんは「有事の際、隊員の安全面に最も気を使いますが、よその地域の見本になるような協力隊をつくり、有漢地域の住民が安心して生活していけるまちづくりを目指します。自分たちのまちは、自分たちで守るんだ」という気持ちでやっていきたい」と力強く話します。

地域住民の幸せな暮らしを願った強力な支援隊に活躍の期待がかかります。



学園だより

「別れと出会い」

今年も別れと出会いの季節となりました。去る3月3日(火)に順正高等看護専門学校、17日(木)に順正短期大学、そして22日(火)には吉備国際大学の「卒業式」が厳かに行われ、多くの学生が友人・恩師との別れを惜しみつつも、新たなスタートに期待で胸を膨らませながら旅立ちました。

今年の卒業生数は順正高等看護専門学校74人、順正短期大学248人、吉備国際大学894人の合計1215人。今までに約1万9千人もの学生がここ高梁の地で学び、旅立ったこととなります。「高

梁」の街は卒業生たちの心に「第2の故郷」としていつまでも残り、これほど多くの卒業生を輩出することができたのも、市民の皆さまのご理解とご協力によるものであると感謝しております。改めてお礼申し上げます。

さて、冒頭で「別れと出会いの季節」と申しましたように、春は「出会い」の季節でもあります。4月4日(月)は吉備国際大学、順正短期大学、順正高等看護専門学校の「入学式」でした。また新たな学生たちが、ここ高梁の地で青春を謳歌することになりました。新入生には、この地での新しい「出会い」を大切に、有意義な学生生活を送っていただきたいと思います。そのためには市民の皆さまのご支援が欠かせません。これまで同様に学生たちを応援してくださるようお願いいたします。

高梁学園広報室 山本武生



編集後記

通勤途中、大きなランドセルをしょって上級生のお兄さん、お姉さんに手を引かれて元気に登校する微笑ましい新一年生の姿を見かけます。わが家の長男も4月から中学生。早く学校に慣れて元気にがんばってもらいたいです。

さて、市や市の関連施設を見学してもらおう「市政見学バス」を行っています。申し込みを受け付けているところですが、すでに3組の団体が、希望の地域の施設

などを見学されました。参加者の中には、「市には、こんな素晴らしい施設があるんですね」などの感想もあり、合併後広くなった市域を知っていたくよい機会になっているのだと思っています。

新年度が始まり、市ではいろいろな事業が展開されます。広報たかはしでは、市からの行政情報はもちろん、地域の皆さんのまちづくり活動など親しみある紙面で、お伝えしていこうと思っています。情報の提供などよろしくお願ひします。(NK)



卓球で楽しくふれあい

卓球同好会

まさよし
会長 福田雅吉さん(68)

毎週月曜日と木曜日の午後1時から午後4時まで、市民体育館で卓球を楽しむ皆さん。会員は50代から70代の39人。試合はすべて15分交代の個人戦で、得点はつけません。「無理はしない」が原則。試合中は左右に動いたり飛び跳ねたりと楽しそう。休憩中は世間話や趣味の話し

以外にも、ボウリング大会や花見などの交流を行って会員の親睦を深めています。同好会の一員になりたい人は会長の福田さんまで。☎24322



わたしの健康づくり

をして有意義な時間を過ごしており、体育館には笑顔があふれています。

山根順市さん(76)は「卓球をしているから元気じゃ。おかげで皆勤賞」と笑顔で話されます。

同好会で最年長の伊達嶺一さん(77)は卓球を始めて18年になるそうです。「膝が痛いんじやが卓球をしているときは、すっかり忘れてしまつて。卓球はストレス解消になるよ」と話されます。

会長の福田さんは「卓球がうまくなることよりも、体を動かすことや仲間同士の交流を大切にしています。体と心の健康が大事ですからね」と話されます。

同好会では卓球